

# 常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月30日(金)  
その3

## ◇ 学習発表会から見たもの

保護者の皆様におかれましては、学習発表会を開催しましたところ、新型コロナウイルス感染症禍中にもかかわらず多くの方にご来校いただくとともに、予防対策にご協力いただきながら児童の姿をご参観くださりありがとうございました。

本年は、これまでの「学芸会」ではなく、日々の学習の成果を発表する「学習発表会」として開催しました。発表する演目に趣向を凝らした担任の工夫がありました。1年から3年が行った朗読劇は国語の授業で扱った教材に演出を加えたものです。授業で内容を読み解き、登場人物や動物の心情を理解した上での劇ということもあり、児童の登場人物・動物への感情移入は容易であったと捉えています。さらに通常の学習時間を確保しつつ練習時間の短縮を図り、発表に結び付けることができました。また、発表の方法は単学年ではなく学年団で行うことで、他学年の協力を得て、演劇や合奏、歌唱に厚みをもたせることができました。

- 1年生：堂々とした姿に半年間の学校生活で備えた大きな成長が見えました。
- 2年生：元気のよさが持ち味の2年生の最大のよさを伝えることができました。
- 3年生：登場人物の心情の機微を表現する台詞回しの巧みさに引き込まれました。
- 4年生：篠笛の美しい音色が体育館中に響きました。努力の跡が見えました。
- 5年生：名役者が勢ぞろい。歌唱に、演技に大活躍。本番に強いのは練習の賜物。
- 6年生：全てにおいて最上級。学校を引っ張り、学習発表会を締めてくださいました。

さて、敬体表現はここまで。ここからは、いつもの常態表現に戻すとして。

本校のよさは、少人数ということもあり、誰もが主役となって活躍できる場面があるということ。他校に比べれば子供たち一人一人の役割は多く、スポットライトが当たる場面が何度もある。緊張はするだろうが、堂々とやり切る子供たちは逞しい。そして、子供たちの持ち味をしっかりと把握した担任が、その子が備え、高めた持ち味が最もいい形で発揮できるよう役割を配置していた。こうした小さな配慮が教育には最も重要であり、子供の人間的な成長を加速させるのである。

驚くべきは5・6年の上級生の合奏。演奏楽器は鼓笛隊で扱う楽器と同じ児童は1名のみ。他は全て他の楽器を扱い、聴き応えのある合奏へと結び付けた。

最後に、英語劇に挑んだ2名の児童を褒め称えたい。学校では、体育館で何度も練習する場面を見かけた。必ず練習に付き添う担任、さらにはALTの先生も。練習は本番のように。本番は練習のつもりで。それがしっかり実践できていた。家での練習も欠かさなかったW&H。本番は本当に立派で、自信に満ちていた。